

学 習 指 導 案

日時	平成 15 年 1 月 10 日 (金) 第 3 限	クラス	1 年 3 組 (男子 22 名、女子 18 名)	指導者	安藤 敦子
教科	公民 (現代社会)	単元	現代に生きる私たちの課題	本時 (2 時間目 / 2 時間)	
教科書	高等学校現代社会 (第一学習社)				
本時の主題	・現代社会の課題について (課題学習: 新聞作成のまとめ)				
本時の目標	1 これまで学んできたことをもとに、自ら課題を設定し作成した新聞をお互いに検証しあう。 ＜技能・表現＞＜関心・意欲・態度＞ 2 現代の抱える問題の多さに気づき、クラスメイトの作品から関心を広げ、表現や分析の観点などの工夫を学び、相互評価・自己評価をする。 ＜知識・理解＞＜思考・判断＞				
過程	ね ら い	学 習 活 動		指導上の留意点・観点別評価	
導 入 (15)	・テーマの確認 ・他の生徒の作品に関心を持つ。	・テーマ一覧表で、全員のテーマを確認する。 ・あらかじめ各自が提出し、クラス人数分印刷してある新聞を製本する。		・1枚ずつ集めることで、第一印象が鮮明になる。 ＜関心・意欲・態度＞	
展 開 (35)	・自己の取り組みを、多角的に検証する。 ・クラスメイトの作品を通して、社会の諸問題により一層関心を持つ。 ・一概に決めつけない柔軟な思考力を養う。	・同様のテーマに取り組んだ生徒同士で、班をつくり、調べるための方法や力点を置いたところ、紙面の工夫などについて意見交換しあい、互いに感想を述べあう。 ・適宜メモをとり、あとで相互評価・自己評価を評価表にまとめるための用意をする。 ・自分とは違うテーマに取り組んだ生徒の作品も読み、自由に質疑応答する。		[評価方法] ・机間指導による行動観察 ＜資料活用・技能・表現＞ ＜関心・意欲・態度＞ ・これまで関心のなかった分野や、偏狭なものの見方をしていた分野のことにも関心を持ち、意欲的かつ多角的に現代の課題に取り組み自ら判断するための良い刺激とする。 ＜思考・判断＞ [評価方法] ・挙手、発言等	
ま と め (15)	・評価、取り組んでみての感想などをまとめる。	・本時の活動を通して、クラスメイトの作品の中で自分がよいと思ったものを選ぶ。 ・自分の取り組みについての自己評価をする。		・客観的に評価する難しさを知る。 ・この学習を通して得たことをまとめる。 [評価方法] ・評価表提出	

本校の公民科では毎年1年生に“現社新聞”をつくってもらっている。これは現代の諸問題に視点を置き、しかも自分の問題としてとらえられる北高生であって欲しい、そんな願いから行っている。

受け身的に情報を得るだけでなく、自ら取材し、その問題点を解明する力が現代には要求されている。毎年君たちの先輩たちは非常に優秀な新聞をつくってきた。「読ませる紙面づくり」にまで気を配る完成度の高い新聞に北高生の底力をみる思いがしている。今年も素晴らしい新聞が提出されることを教科担任一同今から楽しみにしている。では、新聞編集にあたりいくつかの約束事をあげておこう。

1. 用紙 … B4ファックス原紙（配布）1枚をこえない
 - ・ 縦置き
 - ・ 数字の入った枠の内側の線から外側には書かない
 - ・ 右端上方に3枠×15枠の表題をつける
例 環境新聞 年金新聞など
 - ・ 表題の下に年組名前を入れる



2. 注意事項…

- ・ 原則として手書き（ワープロ可）、コピーは写真・図・表などは可。文章のコピーは不可。
- ・ 原則としてペン書き（黒）、鉛筆の場合はHB以上で濃く。

3. テーマ…

- ・ 現代社会に関わる内容に限る（スポーツ、芸能、事故などは不可）
例：環境破壊、温暖化、産廃問題、ゴミ、都市問題、リサイクル、
原発、選挙問題、官僚、税金、年金、基地問題、憲法、ジェンダー、
金融、為替相場、株式相場、宗教問題、伝統行事、脳死、クローン技術、
人口問題、民族問題、就職難、不景気、パレスチナ問題、少子高齢化など

4. 期限… 1 2 月 1 3 日（金） 昼休みに現社係が集め、
出席番号順にして現社の教科担任に提出

現社新聞作成にともなう評価

組 番 氏名

1 クラスの作品からベスト5を選ぼう

- ＜観点＞ ・テーマの設定（意図がはっきりしているか、独自性があるか）
 ・レイアウト、構成の工夫
 ・誤字、脱字等のミスがなく、丁寧に仕上げてあるか
 ・わかりやすい文章表現、かつ自分の意見がしっかり書けているか
 など

作者名	選んだ理由

2 自作について自己評価をしよう

上記の観点などに基づいて自分の作品を振り返ろう（3行以上は書くこと）
